

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和4年度第1回美里町生活支援体制整備協議会

- 2 開催日時 令和4年6月13日（月）午前10時から正午まで

- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室

- 4 会議に出席した者
 - （1）委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、
佐々木義夫委員、柴垣信二委員、庄司哲広委員、小川久美子委員

 - （2）事務局 美里町長寿支援課 横山太一、秀城百香
美里町社会福祉協議会 山口保広、永沼威雄、高橋ゆかり
青木真理

- 5 議題
 - （1）開 会
 - （2）会長及び副会長の選任について
 - （3）協議会委員の交代について
 - （4）会議録署名委員の選出
 - （5）報 告
 - ①生活支援体制整備事業の概要と協議経過について
 - ②生活支援コーディネーターの活動について
 - （6）協議事項
 - ①見守りあいについて
 - ②その他

6 会議の公開・非公開の別
公開

7 非公開の理由

8 傍聴人の人数
0人

9 会議の概要

(1) 会議録署名委員の選出 柴垣信二委員、小川久美子委員

(2) 意見等の概要

○小野会長 協議事項に入ります。「見守りあいについて」というテーマで事務局からお願いします。

○事務局(高橋) 資料の7ページを御覧ください。昨年度の最後の協議会のときにも、見守りあいについて皆さんに御意見を頂いたところでした。そのときに見守りについての共通認識が、結構バラバラだというのが分かってきました。見守りと一口で言っても、実はこの図にあるように、二段構成になっているという考えにたどり着きました。下が「支えあいによる見守り」ということで、対象者が明確ではない見守りになります。その上に「仕組みによる見守り」ということで、こちらは対象者が明確です。仕組みによる見守りは、あんしんネットワーク事業・避難行動要支援者名簿・緊急通報システム・配食サービスにまとめさせていただきました。各事業の内容はチラシに書いてありますので、後で見ただけいただければと思います。

皆さんに御意見頂きたいのが「支えあいによる見守り」のところになります。私たちとしては、この「支えあいによる見守り」を広めていきたいと考えております。課題として、見守りの活動の実態が見えないという意見であったり、そもそも感染症の影響でお茶飲み会が減って情報が入ってこない、地域見守り隊のステッカーも、ステッカー貼ってるだけになってるんじゃないかなんていう意見も頂いたところでした。この「支えあいによる見守り」は強みと弱みがあると感じております。最初に強みについて普段感じていることや、見守りしながら思っていることなどを教えていただきたいですが、いかがでしょうか。

○小野会長 普段の見守りについて何か感じているようなことはどうですか。民生委員をしている角田さんはいろいろ感じていると思いますが。

- 角田委員 今、お茶飲み会が全然できていません。百歳体操の後に雑談する形でやっているんですけども、参加してくれる人はいつも決まった人になってしまう。後は隣近所での見守りは、隣近所の関係が希薄になってきて難しいです。何気なく見守ってねと個人的にお願いすると、皆さんがいいですよと見ててくれるので、そういうことはまだまだ救いがあるかなと思います。退職年齢が上がったことで、ますます地域にデビューしてくるのが遅くなって、もう高齢だから煩わしいことは嫌だと言われ、その時間を自分のために楽しみたいって言われる。だから、本当にこれからの地域づくりは難しいなというのが私の実感です。
- 事務局（高橋） 退職年齢が上がったけど、そこから地域デビューとか地域とつながる機会を持つ前に、自分の時間を楽しみたいということがあるみたいですよ。
- 角田委員 昔は60歳で退職した男性が、地域のイベントがあれば来て何回か手伝ってもらって、役員になってという流れができてたんだけど、今は70歳過ぎても週3日は働いてる人やシルバー人材センターに登録している人もいます。後は他の時間は、自分の趣味や旅行をやりたいたからと、高齢者の地域デビューが遅くなってしまって、地域の担い手不足になっています。
- 小野会長 そういう弱みがあるということだよ。老人クラブの柴垣さん、老人クラブで見守ってもらってる話などは無いですかね。
- 柴垣委員 改まったものではないですが、毎度同じような行事を組んで、地域や老人クラブ全体での行事は組んでいます。新しい取り組みを何かやろうというのは今のところはないですね。
- 小野会長 老人クラブの人たちが、何か見守られるとか、何かそういう話がありますか。
- 柴垣委員 個人的な話ですが、たまたま近所の人が入院して奥さん一人になって、奥さんは車の免許がなくて買い物ができない。隣には店があるけど、なかなか自分の思うような物がないということで、私が運転して一緒に買い物に行ったというケースがあります。ただ、実際その方は歩けるんですよ。バス停がすぐ目の前にあって、バスに乗って店に行くこともできるはずなんです。それをやらせないと駄目なのかなということがあって、買い物ツアーを断ったんですよ。そういうことが地域や何かで解決できないものかと思うんですけども、シルバー人材センターで買い物ツアーをやらしてもらえそうなシステムがあるってさっき聞いたものですから、もっと皆さんに知れわたれば、そういうことも一つの見守りになると感じています。
- 小野会長 隣近所の見守りあいの強みといっても、どこまで入ったらいいとか、どこに相談したらいいとか悩むこともあります。シルバー人材センターの人もしろんなことやってるみたいだから相談してもらってもいいんじゃないかなと思います。
- 事務局（高橋） 柴垣委員が先ほど買い物ツアーをしたっておっしゃってたんですけど、具体的にどんな感じでやられたんですか。

- 柴垣委員 1週間に1回です。車に乗せて行って、買い物かごを持って一緒に歩くという感じですね。
- 事務局（高橋） それをしようと思ったきっかけや思いは。
- 柴垣委員 たまたま隣近所だったということです。もともと小牛田に住んでいた方なんですけど、私と面識もあって親しくさせてもらった関係で、仕方がないかなという思いです。ただ1回行くと、また頼むねみたいな感じで。最初は小牛田駅前の農協に来ただけでも、そのうちに小牛田小学校のこのスーパーに行くようになって、最後は南郷の農協。そんな感じだったんだよね。
- 事務局（高橋） やっぱりつながりがあったから、手伝おうかなという思いになったんですね。
- 小野会長 ありがとうございます。小川さんはコミュニティセンターにお勤めになっているから、いろんな人が来ていろんな事業をやっていると思うんだけど、そのあたりで見守りの話はないですか。
- 小川委員 結構あります。本小牛田コミュニティセンターでは、割とサークルの平均年齢が上がってきています。皆さん、地域活動や民生委員をしながらダンスや茶道のサークル活動をしたり、いろんな方たちがいらっしゃるので、お話を聞く機会があります。お茶のみ会を個人的にしていた人たちのなかで、自分の日本舞踊サークルにお茶のみ会の友人を月1回連れて外出する機会をつくった話もあります。もともとその友人が元気だったときに日本舞踊やっていたこともあり、自分たちが活動している1時間半の間に、その方も15分間ウォーキングみたいなことをされてるという話でした。実際に来ると、来るときの顔と帰るときの顔が全然違います。これも見守りの新しいかたちかもしれません。自宅の外に出て広い空間でみんなとお話できるというのは、コミュニティーとしても強みかなと思っています。
- 小野会長 若い人は来てるんですか。
- 小川委員 本小牛田コミュニティセンターは若い人は少ないです。やっぱり現役を終えられた方たちがメインになってしまう。ただ駅東地域交流センターですと育児サークルもあります。皆さん、50～70歳代の方がお手伝いに来てくれて助かるということなので、それもつながりの一つですかね。
- 小野会長 庄子さん、商工会では何かありますか。
- 庄子委員 商店が個々でお客さんと関わっていますが全体での共有はされていないというのは感じます。ある商店はある区域の御高齢の方について把握してるけど、他の商店は把握していないし、商工会全体としても収集とか把握はできていない。どうしても個々の情報だけにとどまっている気がしますね。
- 小野会長 商工会の加盟店で認知症の講習会したんですか。
- 庄子委員 去年、商工会の商業部会中心に認知症サポーター養成講座を受けて、商工会員の皆さんも地域に貢献をどうするかということ協議しています。商店の皆さんが認知症の人と関わったときにまず、皆さんどうしたらいい

いか、どこに連絡したらいいかわからないということがありました。それであれば、地域が高齢化していく中で各商店の方々もお客さんがどんどん減っていったらという現状もありますので、できるだけ地域とつながりを持つことで商売や見守りにもつなげていけるかなというところです。

○佐々木委員 介護保険の中でも認知症対応があるんですけども、やっぱり認知症の勉強をきちんとやっていかなきゃいけない。いくら何型の認知症と分かっているけども、実際人って全部違うんですよ。傾向はあったにしても全て対応の仕方が違うんです。ただ、基本的な知識を得ていれば、穏やかにそこで過ごしてもらえる程度の対応は可能だと思います。だから認知症サポーター養成講座をいろんな組織の中で受けていくっていうのがいいんじゃないかなと思います。前は定期的にやられてたと思うんですけども、この頃停滞してるなという気がしますので、このまま地道に続けていくしかないのかなと思います。ただ、それが全体の認識としてどこまで捉えられているのかよく分からなくて、それを捉えるためにはどうしたらいいのかというのを今後考えていかなきゃいけない。こういう会議で考えてはいるんですけど、それが課題なのかなと思います。

○小野会長 施設でやってても、いろんな話が出てきますか。

○佐々木委員 そうですね。そういう活動を増やしていくことが大事じゃないかと思うんですよ。仕組みを作るよりも、少しずつ3人でも4人でも定期的に進めることによって、やっぱり見守りにもなる。後は認知症に早く気づくとか、いろんな気づきになってくると思うので、そのあたりを楽しんでいければいいのかなと思います。その活動がずっと広がったときに全体も見れた方がいいということと、後は先導する人がいてくれたりと、専門知識や経験を積んでいる人がアドバイザーとして入り込んでいけば、今まで3人だったのが4人になったり、一つだったのが二つになったりしてくる。何かそんな感じで広がっていくのかなという気がしてます。

○小野会長 ところで、この人は認知症かなというのは、どこで判断するんですか。本人はわからないっていうからね。

○柴垣委員 老人クラブでも3年ぐらい続けて、認知症サポーター養成講座をやってきていて、各団体何名と参加者が縛られるなかでどこまで普及されてるかっていうと、ちょっとかしげたくなる部分にはなるんですけどね。最初は、受講証明書を発行しますかとあったんだけど、発行したからその人が何かなれるのかっていうと不安もあります。

○角田委員 支えあいによる見守りということで感じたのは、支援されてる方も支援してますよという特別な意識がなく、それまでの関係性やその方の生きざまが反映されて、そういう関係性を構築できているのかなと思いました。ただ、それまでの関係性が良好にできている方というのは、比較的支えあいによる見守りでいける方だと思います。全てではないけど、仕組みによって見守らなきゃいけない方もいると感じておりました。やっぱり支え合いの強みというのは、人間的なつながりというところが一番重要なところなんだな

と感じていたところでは。

- 小野委員 今の話を聞いていると、やっぱり地域の見守りってというのは大事だと思って思うし、常に見守ってられないんだよね。我々も自分の生活があるから。だからうちの行政区の例だと班が1班・2班・3班とあって、その班の中に15人いる。それを3人位に分けて、お互いに3軒だけは気にかけてあって過ごしましょう、常にそういう意識を持って暮らしましょうとしている。何かあった場合にはすぐに安否確認も防犯訓練する場合も、その3軒だけ分かればOKで、班長に言ってもらって班長が本部に伝えるっていう形です。だから、常に見守ってるわけじゃないけれども、気にかける。高齢者がいるいない関係なく、一つの班だよという感じで。それがどこまで徹底してるか、意識してるかわからないけれども、そういうのもひとつの隣近所の見守りの一つかなと思っています。
- 事務局（横山） 皆さんの話で、気にかけるというお話をしてくださったんですけど、気にかけるための何か、いきいき百歳体操も実は体を元気にするほかに、気にかける人たちが地域で増えてくれればいいなと思って取り組んでいるところがあります。柴垣さんの話のなかで、地域で気にかけるあたりできているので、新聞たまってたと見つけたりできたでしょうし、コミセンでもサークルのなかで、やっぱり気にかけるから、休んだら気になる。そういう気にかけることができるようになるといいと思っています。コロナでそういう場は人が減ってきているという話があったので、いろいろ工夫しながら、ちょっと気にかける人間関係ができるようなことがないかと改めて思っています。そのあたりのことを、この会議や個人・団体等で取り組んだり、連携したりできるといいと感じます。
- 小野会長 やっぱりコロナ禍でね、それが一つの大きな問題です。コミュニケーションが取りづらい部分も出てくる。今いろいろと問題があると思うんです。自分の地域でも最近亡くなった人がいて、やっぱり何かあったらすぐに電話かけられる人、もし身内にいなかったら隣近所でそういう人が一人いるといいなと思った。
- 事務局（秀城） 私は認知症サポーター養成講座の担当になっていますが、柴垣さんからお話があった認知症サポーター養成講座を受けてサポーターにはなったけれども、その後地域でどういった活動をしていけばいいのか課題があるということを知れたことだけでもすごい勉強になりましたし、どうにかしていかなければいけないんだなと感じさせられました。
支えあいによる見守りという面でも、認知症の方の見守りが今後課題になってくると思うので、そういった意味でも認知症のある方を知ることはずごく大切なことです。認知症サポーター養成講座では認知症の方への接し方や知識を学ぶこともできると思うので、昨年遠田商工会さんにも養成講座を受けていただいたように、認知症の方と接する機会の多い地域の団体にも知ってもらえるよう活動していきたいと思っています。
- 小野会長 今問題なのは講座を受けてきたあとに、それをどのように生かし

ていくかということですね。

- 佐々木委員　そういう講座やるときに、認知症の接し方の実演をできればわかりやすいと思います。二人いればできるはずなので、認知症役の人と、もう一人はそれをサポートする人になって、実際に声掛けなどをするとわかりやすい。いろんな声掛けや関わり方の具体例がたくさんありますよね。そんなことを考えながら、その講座も運営していった方がいいのかなと感じます。
- 事務局（横山）　認知症サポーター養成講座の講師を介護事業所の方をお願いしていて、具体例も伝えますが、実際に日頃の生活でどう活かせるかは考えなければいけないと思います。
- 角田委員　私の講座の捉え方は認知症を理解したから何かを中心になってやるのではなくて、この人はもしかしたら認知症かもしれないとなったら、そのときの対応ができる人が増えていくことを目的に、認知症の講座をやっているんだという認識です。それを身に付けたから私がリーダーになって、地域で認知症の対応の仲間を作るという発想ではないと思って私は講習受けたんだけど、それはどうですか。
- 事務局（横山）　おっしゃるとおりです。講座の資料も結構前に作ったものになっていたりすると、最近だと認知症の本人が一番大切なので、ご本人を大切にするためにはどう関わったらいいのかということが言われていたりするので、日頃の関わり方や身近にいたときにこう接するといいいよねという内容に、講座の伝え方も変えていけた方がいいのかなという話でした。何か必ず具体的な活動してくださいというものじゃなくて、知識を身に付けつつ、さらにその関わり方がわかるようにしていければいいかなと思います。
- 角田委員　高齢の方が自分のお家わからなくなったんじゃない、見てたら行動が変だよねとか、そういう時の声のかけ方などをある程度知識として持っていれば優しくなれる。
- 事務局（横山）　そうですね。伝え方も劇でもいいでしょうし、具体例も今まで以上に交えながらできればと思います。
- 角田委員　そういうのができるように、皆さん知ってくださいでいいと思う。
- 事務局（横山）　そうですね。講座の内容や資料も含めて、そういう感じにできるといいのかなと思います。また、今も認知症に対する偏見を持っている方もいらっしゃるようなので、少しでも偏見がなくなって、あたたかく見守られるようにできればいいかなと思っています。
- 角田委員　見守り・支えあいに関して、自分の長い間の人との付き合い方、引きこもっていくか・外に向いていくかがとても影響している。私の地域でも最近一人暮らしの方が亡くなったんですけど、もともと人と付き合わない人で会うことも難しい人でした。病院に入院してたのも皆知らないぐらい。入院して退院したあと家族が電話したら全然電話に出ないから見てくださって言われて行ってみたら亡くなってたということがあった。やっぱり家は隣同士でも隣の人とも交流がない。そういう関わりを拒否する方が結構増えてきてるんですよね。

- 事務局（山口）　たくさんの人に講座を受けてもらうことで、多くの目を増やす。多ければ多いほど引っかかってくると思いますので、そういったところで安全が高まっていくのかなと感じますし、後は仕組みが大切なことでもあるんですけども、やはりその前には地域の支えが大前提なのかなと感じております。過去の経験からですが、ある会社の方が顧客の訪問をしたときに、雪がすごく積もってた。誰か地域で雪かきしてくれる人いないのかなと感じたそうなんです。その視点はいいんですけども、やはりそれぞれがそれぞれの立場でやれることをやるのが、支えあいを増やしていくことにつながるのかなと思います。地域だよりやボランティアだよりというのもしっかりにあるんですけども、それだけじゃなくて、それぞれの立場の方々や事業所、地域住民も含め、そういった意識をもって動くことが今は大切ではないかなと思います。それぞれの立場で役割を担っていくことが、この支えを調整していくと最近感じているところです。郵便配達のとくに気にかけてますよという動きが出てきていますけれども、郵便局以外もいっぱいあるですよ。水道の検針や電気量測る人もいる。でも、皆さんメーターが裏にあるもんだから、裏から入ってポストに入れて終わりなんですよね。昔だとこんにちとは挨拶して、水道に来ましたと測るのがルールだったと思うんですけど、今は裏口から入ってきて、いつの間にかいなくなっている。昔のつながりを戻すのは大変なんですけれども、そういったことも、少し変えていく視点も一つなのかなと最近感じたところです。
- 小野会長　社協の永沼さんからお願いします。
- 事務局（永沼）　気かけあう関係性を作っていくために何をしたらいいだろうかということで、その一つが今まで出てきた認知症サポーター養成講座でたくさん芽を作るとかありますが、どれぐらい気かけあう関係性が地域にできてきたというのは、逆に見えづらい。何をやるにもつながりを土台として、地域のなかに作っていかないと、そういう関係、気かけるという思いにすらならないだろうなと思います。つながりを作るためには何がいいんだろうということも、もう少し考えていきたいと思っています。
- 小野会長　難しい課題だね。いろんな人いるからね。
- 事務局（高橋）　角田さんから、退職者の方々が地域とつながりができる機会が遅くなるという話があった。その人たちが何もないうまま高齢になってしまうと、つながりがないまま困った状況に陥ってしまうんじゃないかなと思っています。そうなったときに急に支えあいというのは、なかなか難しいと思うんですよ。つながりの大切さを分かってもらうような働きかけや、つながりを作っていくことも必要になってくるのかなと感じました。
- 小野会長　あんまり大きいつながりを見るとなかなかできない。個々のつながりや10人だけでもいい。趣味の会やカラオケ愛好会・グラウンドゴルフ愛好会とかたちでもいい。全体が70人も来て、みんな一緒に何かやるぞっていったって無理だと思う。
- 事務局（横山）　地区の老人クラブのなかで、身近なところで見守りしてる

のかなと思ったんですけどどうですか。新しい方がクラブに入ってきたりしますか。

- 柴垣委員 県の老人クラブ連合会も減少傾向です。美里町もそういう傾向になって、年々団体がなくなっているというのも町の老人クラブなんですが、そのなかで私が所属している福ヶ袋の老人クラブだけは毎年人が増えている。年会費500円もらうとき、勧誘するときにティッシュボックスとか500円分相当のお土産を持っていく。私も59歳で入ったときにも500円出せばいいんでしょうということで老人クラブに入ったんですけども、いまだに年会費500円。それで総会や新年会などやって、楽しみやお土産がついてくるから人が増える。
- 小野会長 老人クラブが無くなるのは人がいないということですか。
- 柴垣委員 一つは、頭に立つ人がいないということがあるんですよ。まとめていく人がいない。高齢者がたくさんいても、まとめる人がいない。
- 事務局（青木） つながりの弱みのところで、地域活動に参加しにくい現状ができていて、まさにそういった地域との関わる機会があまりないというところから、人との付き合いが少なく引きこもりがちになっていく。老人クラブの話で、先ほどまいシステムがあるなど思ったんですが、サークルにしても、何にしても、つながりから、口コミや誰々が入ってるから私も入ろうっていうつながりから活動が膨らんでいくんじゃないかなと思います。やはり、つながりがないまま高齢になってはちょっとまずいということや、地域デビューを早めにしていただくために何をしていたらいいかを、これから皆さんと一緒に考えていったらいいのかなと感じていました。
- 小野会長 ありがとうございます。協議事項（1）「見守りあいについて」は、以上で終了とします。
- 事務局（高橋） ありがとうございます。貴重な意見を聞くことができましたので、今日出た意見をもとに事務局でも考えたいと思いますし、各委員さんも所属団体に持ち帰っていただいて、検討材料の一つにさせていただきたいと思います。
- 小野会長 協議事項（2）その他で何かありますか。
- 事務局（高橋） 皆さんから、今年度こんなことをやりたいと思っているとか教えていただきたいと思います。小川さん、みさとっこマーケットは何月頃を予定してますか。
- 小川委員 みさとっこマーケットは、10月9日で日時を決定しています。
- 事務局（高橋） 詳細が決まったら次の会議で教えてください。
- 小川委員 今日、皆さんのお話を伺って、私たちの活動の一つの目標としているのが、小さい子どもから高齢者の方まで出店していただいたり、お買い物に来ていただいて、人と人をつなげる場所の提供をしたいということです。今年のテーマが、つなぐ「結」という漢字をテーマにされていて、ちょうど私もこの会議にお声がけ頂いたので、皆さんの意見を聞けて、それが活動へのつながりになればと思っていますので、よろしくお願ひします。

- 事務局（高橋） ありがとうございます。時間になりましたので、閉会とさせていただきます。副会長の渡邊さんから御挨拶お願いいたします。
- 渡邊副会長 今日は大変貴重な御意見ありがとうございました。支え合える地域にしていきたいと、今後も皆さんで話し合っていきたいと思います。お疲れ様でした。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員 _____

委員 _____